第九講・文学的文章⑤

◆心情をとらえる

心情とは気持ちのことです。物語を読むときには、登場人物の心情をとらえることが大切です。

(1) 直接的（ちょくせつてき）な表現をとらえる。

「うれしい」「悲しい」「はらを立てる」など、気持ちを直接表したことばをとらえましょう。

(2) 登場人物の発言に注目する。

気持ちを直接言わなくても、人のことばは気持ちを表すことがあります。

(3) 登場人物の表情や様子、行動に注目する。

ことばだけでなく、表情や様子、行動からも、その人物の気持ちを考えることができます。

(4) 登場人物の性格に注目する。

同じことばや行動であっても、だれが言う(行動する)かによってそこに表される気持ちは変わってきます。

(5) 情景から人物の気持ちを考える。

人物ではなく、情景を表すことばからも、人物の気持ちを読み取ることができます。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

　おお、①よだかでないただのたかならば、こんな生(なま)はんかのちいさい鳥は、もう名前を聞いただけでも、ぶるぶるふるえて、顔色を変えて、からだをちぢめて、木の葉のかげにでもかくれたでしょう。ところがよだかは、ほんとうはたかの兄弟でも親類でもありませんでした。かえって、よだかは、あの美しいかわせみや、鳥の中の宝石(ほうせき)のようなはちすずめの兄さんでした。はちすずめは花の蜜(みつ)をたべ、かわせみはお魚をたべ、よだかは羽虫(はむし)をとってたべるのでした。それによだかには、するどいつめもするどいくちばしもありませんでしたから、②どんなに弱い鳥でも、よだかをこわがるはずはなかったのです。

　それなら、たかという名のついたことは不思議なようですが、これは、一つはよだかのはねがむやみに強くて、風を切ってかけるときなどは、まるでたかのように見えたことと、も一つはなきごえがするどくて、やはりどこかたかに似(に)ていたためです。もちろん、③たかは、これをひじょうに気にかけて、いやがっていました。それですから、よだかの顔さえ見ると、*肩(かた)をいからせて、早く名前をあらためろ、名前をあらためろ、というのでした。

　ある夕がた、とうとう、たかがよだかのうちへやって参りました。

「おい。いるかい。④まだお前は名前を変えないのか。ずいぶんお前もはじ知らずだな。お前とおれでは、よっぽど人格(じんかく)がちがうんだよ。たとえばおれは、青いそらをどこまででも飛んで行く。おまえは、曇(くも)ってうすぐらい日か、夜でなくちゃ、出て来ない。それから、おれのくちばしやつめを見ろ。そして、よくお前のとくらべてみるがいい。」

「たかさん。それはあんまり無理です。私(わたくし)の名前は私が勝手につけたのではありません。神さまから下さったのです。」

「いいや。おれの名なら、神さまからもらったのだといってもよかろうが、お前のは、いわば、［　A　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

と［B］と、両方から借りてあるんだ。さあ返せ。」

「たかさん。それは無理です。」

「無理じゃない。おれがいい名を教えてやろう。市蔵というんだ。市蔵とな。いい名だろう。そこで、名前を変えるには、改名の*2披露というものをしないといけない。いいか。それはな、首へ市蔵と書いたふだをぶらさげて、私は以来市蔵と申しますと、*3口上をいって、みんなの所をおじぎしてまわるのだ。」

⑤「そんなことはとても出来ません。」

「いいや。出来る。そうしろ。もしあさっての朝までに、お前がそうしなかったら、もうすぐ、つかみ殺すぞ。つかみ殺してしまうから、そう思え。おれはあさっての朝早く、鳥のうちを一軒ずつまわって、お前が来たかどうかを聞いてあるく。一軒でも来なかったという家があったら、⑥もう貴様もその時がおしまいだぞ。」

「だってそれはあんまり無理じゃありませんか。そんなことをするくらいなら、私はもう死んだほうがましです。今すぐ殺してください。」

「まあ、よく、あとで考えてごらん。市蔵なんてそんなにわるい名じゃないよ。」たかは大きなはねを一杯にひろげて、自分の巣のほうへ飛んで帰って行きました。

（宮沢賢治『よだかの星』）

＊１肩をいからせて＝いばって。
＊２披露＝発表。
＊３口上＝あいさつ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　□Ａ・Ｂにあてはまることばの組み合わせとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　Ａ　鳥　　Ｂ　そら
イ　Ａ　おれ　Ｂ　夜
ウ　Ａ　神さま　Ｂ　おれ
エ　Ａ　たか　Ｂ　よだか

□

問二　――線①「よだか」について述べた次の文から、まちがっているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　羽虫をとってたべる。
イ　たかとは関係がない。
ウ　つめがするどい。
エ　かわせみの兄弟にあたる。

□

問三　――線②「どんなに弱い鳥でも、よだかをこわがるはずはなかったのです」とありますが、では、ほんとうのたかに対してはどうでしたか。文中から五十一字でさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

□□□□〜□□□□

問四　――線③「たかは、これをひじょうに気にかけて、いやがっていました」とありますが、たかはどんなことをいやがっていたのですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　よだかが「たか」という名をもっていること
イ　よだかの空を飛ぶ様子がとても力強いこと
ウ　よだかのなきごえがとてもするどいこと
エ　よだかがたかのことをおそれないこと

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　――線④「まだお前は名前を変えないのか」とありますが、このときのたかの気持ちを説明した次の文の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

たかとは［　　］がちがうにもかかわらず、いつまでも「たか」の名前をかたっている、［　　　　　］な［　　　］に、はらを立てている。

問六　――線⑤「そんなことはとても出来ません」とありますが、よだかが自分の名前に強い思い入れをもっていることがわかる一文を、ここより前の文中から書きぬきなさい。

［　　　　　　　　］

問七　――線⑥「もう貴様もその時がおしまいだぞ」とありますが、これは、だれがだれをどうするということですか。次の文の（　）にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

（　　　）が（　　　）を（　　　）ということ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　この文章の内容と合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　小鳥たちは、たかのこともよだかのこともおそれている。

イ　たかはよだかに無理なことをいって、わざとこまらせている。

ウ　よだかは、へんなことばかりいうたかにあきれている。

エ　よだかは、たかの無理な要求にこまり果てている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　文学的文章⑤

一題目

問一　イ
問二　ウ
問三　もう名前　～　かくれた
問四　ア
問五　人格・はじ知らず・よだか
問六　神さまから下さったのです。
問七　たか・よだか・つかみ殺してしまう（別解　つかみ殺す）
問八　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。